

協会の活動

発行：一般社団法人栃木県老人保健施設協会広報委員会

令和5年度 第1回職員研修会

- 日時：令和5年10月17日®
10時20分～15時20分
- 会場：Web会議システム「Zoom」

研修委員会による「令和5年度第1回職員研修会」【事例発表会】が10月17日（火）にWeb会議システム「Zoom」にてオンライン開催され、30施設の職員が参加しました。福祉系学科で学ぶ栃木県内の高校1校の生徒と先生方、そして、栃木県内の福祉系専門学校2校の生徒と先生方にもご参加いただきました。

石川光宏研修委員長による開会の挨拶で始まり、続いて栃木県老人保健施設協会：矢尾板誠一会長の挨拶がありました。矢尾板会長からは、「日本の医療介護システムは、急性期から回復期、リハビリ、在宅生活維持・支援、在宅介護不能となれば介護施設入所という流れが本流。日本の高齢者介護システムの世界に類をみない特徴は在宅生活維持、支援システムがあることです。柱が地域包括支援システムであり、老健施設のデイリハビリ、入所リハビリ、訪問リハビリがその一翼を担っています。老健施設は在宅生活支援の要。地域包括ケアの中核的役割を果たし、利用者の社会生活を支えていくことが求められるのです。コロナ禍が3年以上続き、老健機能を十分に発揮できない状況も続きました。この環境に負けずに各施設は工夫を凝らしてこの状況を打開し、社会の期待に応じて役割を果たせるようにそれぞれ努力しています。その経験とノウハウを分かち合い、高め合う機会がここにもてることが喜びに堪えません。各施設に経験と知識、知恵を共有できる貴重な時間となるでしょう。各プレゼンテーションを大いに楽しく意見拝聴して更なる成長の糧としたいと思います。」と述べられました。

今回は9施設から11事例の発表があり、午前と午後に分けて発表を行いました。

発表事例 施設

- ①「とちぎの郷での退所支援(困難事例)」／とちぎの郷
- ②「住み慣れた家に帰るには」／やすらぎの里八州苑
- ③「コロナ禍における動画を活用した退所指導」
／かみつが
- ④「介護老人保健施設と居宅介護支援事業所等の連携について」／独立行政法人地域医療機能推進機構うつのみや病院附属介護老人保健施設
- ⑤「統一した言葉かけを目指して～皆の言葉で不穏を和らげられるか?～」／宇都宮シルバーホーム
- ⑥「レクリエーションで生活を豊かに」／見龍堂メディアケアユニット
- ⑦「循環不全を原因とした慢性疼痛による不眠へのケア」
／同仁苑
- ⑧「老健での疼痛コントロール看取り支援」／とちぎの郷
- ⑨「いつまでもデイケアに」／いずみ
- ⑩「通所利用者に対して栄養面に関わりを持つ効果」
／白楽園
- ⑪「経口移行加算算定者10例の調査からみえた老健の役割」／やすらぎの里八州苑

医療福祉業界においては、依然としてコロナ禍にあるため、オンライン研修会が基本となっています。しかし、画面越しであっても、各施設の発表者の熱意を肌で感じられるかのような力のこもったプレゼンテーションが数多くありました。午前の部の在宅復帰支援に関する事例発表は、コロナ禍においても老健の中間施設としての機能を発揮するため、様々な工夫を凝らした支援に取り組まれている様子が事細かに説明されました。ケアマネジャー、支援相談員等が家族に対して繰り返しの働きかけが重要であったり、在宅生活のイメージ化をする上で動画を活用したりと様々な取り組みが紹介され、また、「どこでも連絡帳」を活用した事例では、福祉系専門学校の先生より質問がある等、各事例に対する質疑もありました。



午後の部の発表では、ご利用者様に対する専門性を持ったアプローチ方法が多数紹介されました。中でも認知症高齢者に対する統一した声掛けをマニュアル化した事例には興味津々の質問が寄せられ、また、マッサージを用いて良眠を促した事例については、内服に依存せず、スキンシップにより改善を図った成功事例として、介護の基本精神を感じるものでありました。

今回の発表は、コロナ禍での在宅復帰支援や高齢者への個別ケアにスポットをあてたテーマが多くありました。福祉を学んでいる高校生からの質問もあり、大変有意義な時間を過ごすことができましたと感じます。このような発表会を通じて各施設における様々な取り組みを共有することで日々の忙しい業務を見つめ直す契機とし、新たな風をもたらしてくれたらと願うばかりです。

ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

